

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000047
法人名	社会福祉法人 健寿会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	佐賀市富士町大字小副川562 (電話) 0952-64-2315

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号
訪問調査日	平成21年2月25日
評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10 月 7 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	10人
非常勤	1人
常勤換算	10.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,050 円	その他の経費(月額)	38,750 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鮫島病院、栗林歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は富士町の熊の川温泉に位置し、周りには山や川が広がっており四季折々の自然の景色を楽しむことができる。広い敷地の中には介護老人福祉施設や小規模多機能型居宅介護事業所等が隣接しており、それぞれの機能を活かした連携が図られている。職員は利用者一人ひとりの生活リズムや残存機能を大切にしながらその人らしい日々の暮らしとなるように支援しており、居間には利用者が生けられた花も飾られている。運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、参加者からは地域の情報を貰ったり、また、地域の中で事業所のことを伝えてもらい、事業所の理解者が少しずつ増えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、「地域密着型サービスとしての理念の作成」及び「地域とのつきあい」が改善課題となっていた。課題については、職員間や運営推進会議で話し合い、できるところから改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員はサービス評価の意義を理解しており、全員で自己評価を実施し、振り返りの良い機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、事業所の状況や行事等を報告すると共に、サービス評価の結果を報告し、改善課題についても話し合いがなされている。また、運営推進会議のメンバーからは地域の情報を伝えてもらったり、地域の中では事業所のこと話してもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や介護計画の見直し時に声をかけ、気軽に何でも言ってもらえるように心がけている。玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情受付の窓口を明示している。意見や要望があった場合には、それを尊重し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町の花火大会に出かけたり、クリスマスには小学生から手作りの品がプレゼントされている。また、併設施設の行事では、保育園児や小学生及びボランティアの人達との交流も持たれているが、事業所を拠点とした交流には至っていない。運営推進会議でも検討されているが、具体的な意見や助言を得るまでには至っていない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に地域密着型サービスの役割を加え、「一人ひとり個人として尊重し、地域の中で心のふれあい、あたたかさを大切にした寄り添うケアに努めること」等を理念としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の折に話し合ったり、日常の業務の中でも職員同士で確認し合い、理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の花火大会に出かけたり、クリスマスには小学生から手作りのプレゼントも届けられている。併設施設の行事を通じては、保育園児や小学生及びボランティアの人達との交流の機会も持たれているが、事業所を拠点とした交流には至っていない。運営推進会議でも検討されているが、具体的な意見や助言を得るまでには至っていない。	○	地域密着型サービスの役割を考えた、地域住民との双方向的な関係作りが一層強化されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はサービス評価の意義を理解しており、全員で自己評価を実施し、それぞれが振り返りの良い機会となっている。また、昨年度の改善課題についても職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、メンバーには利用者の家族や民生委員、市町の職員等の参加が得られている。会議では、事業所の状況や行事等を報告すると共に、サービス評価の結果を報告し、改善課題等についても話し合いがなされている。また、運営推進会議のメンバーからは地域の情報を伝えてもらったり、地域の中では事業所のことを話してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折に触れ、市や町の担当者には、事業所の状況を伝えたり課題解決のための相談をする等、サービス向上のための協働関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については主に面会時に報告をしている。面会の少ない家族には、請求書や金銭管理の報告時に利用者の様子を書き添えて届けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画の見直し時に声をかけ、気軽に何でも言ってもらえるように心がけている。玄関には意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情受付の窓口を明示している。これまでに苦情ではないが意見や要望があった時には、それを尊重しサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の特性から、併設施設間の人事交流は行われていない。新しい職員の採用時には、他の職員が間に入り利用者との関係作りを支援している。また、可能な場合には、引継ぎの期間を取る等して、利用者のダメージ防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会が毎月開催されており、職員は積極的に受講しスキルアップに繋げている。なお、法人内の研修会には外部講師を招くことも多い。また、外部の研修会にも可能な範囲で参加しており、参加者は会議等の折に伝達を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者団体に属しており、県内の他の事業所と毎年2回相互訪問や勉強会を行い、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に見学に来てもらいゆっくりと過してもらったり、可能な場合にはショートステイを活用してもらったり、徐々に馴染んでもらえるように取組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から精神面で支えられている部分があり、そのことが仕事へのやりがいにも繋がっていることを実感している。また、職員は昔馴染みの慣わしや歌、歴史等を教えて貰うこともあり、そういった場面が多くもてるように工夫もしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日常の会話、表情、動作、記録等から本人の気持ちや希望を把握している。また、意志の疎通が困難な場合にも、家族からの情報や表情等から本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と十分に話し合い、希望や意向を確認すると共に、かかりつけ医や職員からの情報収集を重ね、本人らしい暮らしを目指した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて期間が終了する前に見直しが行なわれている。見直し時にも本人や家族と話し合い要望等を確認している。また、利用者の状態変化時や退院時にも随時見直しを行い、現状に添った計画で支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し、健康管理や早期退院の支援に取り組んでいる。協力医療機関からの往診も毎週行われており、家族の安心にも繋がっている。また、家族の状況に応じて通院の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される医療機関の受診がなされており、かかりつけ医の変更も本人や家族の希望によって行われている。事業所とかかりつけ医との連携も図られており、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた具体的な指針が作成されており、医療機関とも方針の共有はできている。家族には、サービス利用開始時に説明を行い、その後も必要に応じて気持ちを確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として敬い、プライドやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。また、事業所便りや個人の記録等は個人情報保護に配慮して取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムや希望に合わせた対応に取り組んでいる。起床及び就寝時間や食事時間、入浴の日時、昼間の活動等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事をするように努めてはいる。しかし、利用者の大半は加齢と共に摂食や咀嚼、嚥下機能に問題が生じておられるために利用者に寄り添い、声かけをしながらさり気ない介助や見守りをし、食事を楽しんでもらえるように支援している。調理は事業所で行われているが、献立は併設施設の栄養士によって作成されており、食材も併設施設で購入されている。利用者の誕生日には好みの献立が準備されている。	○	利用者にとって、一層楽しみな食事となるように、誕生日以外にも献立のリクエストをしたり、事業所でも献立作成に取組まれることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じて支援しており、普段は1日おきの入浴である。但し、本人の希望があれば毎日や夜間の入浴も可能である。浴場には温泉が引かれており、利用者の楽しみにもなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かして支援している。洗濯物干しや洗濯物たたみ、おしぼり作り、野菜の収穫等に力が発揮されている。また、歌を歌うことが好きな方が多く楽しみの一つになっている。それに加え、併設施設で開かれている習字や生け花教室への参加も楽しみ事になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、車でスーパー等へ行くこともある。また、併設の介護老人福祉施設での行事や習字教室等への参加も多く、外出の機会になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は昼間は施錠されておらず、自由に出入りができる。職員は常に利用者の安全に配慮して見守っており、外出の気配が見られる場合にはさりげなく付き添って、その意思に添うように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルや連絡網も整備されており、毎年2回、併設施設と合同で、昼夜を想定した火災時の避難訓練等が実施されている。併設施設の職員には地域の消防団に加入している人もあり、地元の消防団との連携も確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士によって作成されており、栄養のバランスも管理されている。食事や水分の摂取状況もきちんと把握し記録されている。なお、利用者の状態や体調に合わせて食物の形態に配慮したり、好き嫌いも把握して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節の花を飾ったり壁飾りをし季節感を表わしている。居間には畳の間も造られており、家庭的な雰囲気の家具や座布団等が置かれている。また、テレビの前にはソファもあり、利用者が居心地良く過ごせるような工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は家族と相談し、利用者が安心される馴染みの品の持込みを支援している。使い慣れた習字道具や編物の道具、こたつ、テレビ、壁飾り、似顔絵、家族の写真が見受けられる。また、日頃練習されている習字も飾られている。		